

## 第3回大泉町議会報告会 質疑応答

Q 放課後子ども教室について、昔の遊びなどをやっていると聞いたが、具体的にどのようなことをやっているのか。

昔のことだけでなく、将来的なことを教えるのも大事ではないか。たとえば、コンピュータプログラムが数年後に教育化されるが、予備知識として、教えることがあったのか。

A 地域の様々な資質をお持ちの方に協力をいただき、様々な体験や交流の機会を提供するための事業です。具体的には、大泉カルタ、体育館での運動、昔遊び、折り紙やしめ縄作りなどを行っている。

活動内容については、運営スタッフで決めている。プログラミングについては、やっていないが、スタッフにそういった資質を持った方がいれば、内容に含まれてくると思う。

Q 政務活動費の29年度の平均は。多い人、返金した人はどのくらいか。

A 返金した人は現職で2名、やめた人3名で計5名。返金のない人は、交付額をオーバーしている。平均は、一期生12万5千円、二期以上の人は15～16万円である。

Q 委員会構成について、議員が15名で4委員会を構成しているが、配分や割り振りがあるのか、どのように決めているのか。また、兼務している人は、3つ委員会を受け持つことはないのか。

A 常任委員会は、議長を除き14名がどちらかの委員会に入る。議会広報は、一期生議員を中心に構成、議会運営委員会は議会をスムーズに進めるための委員会で、ベテラン議員と各常任委員会委員長で構成されている。常任委員会については、本人の希望をとって割り振りをしている。

また、兼務は2つだが、副議長は3つ兼務している。常任委員会2つを兼務することはできない。

Q 安全安心の防災行政無線について、どういった内容を放送しているのか。向きや風向きなどで聞こえづらいところが多くある。スピーカーの向きや使える内容を考えてもらいたい。

A 防災に関すること、町の情報やJアラートなども流されている。聞こえづらいとお話は多くあり、向きや音量の調整は行っている。防災行政無線は、情報を伝えるツールのひとつであり安全安心メールなども活用し情報を伝える仕組みとなっている。無線を他のことに使うことについては、調査研究していきたい。

Q 消防団について、地域の消防団員のなり手不足や今の団員も高齢化している状態なので、少年少女消防団をぜひ進めてもらって、安心して大泉に住めるよう準備してもらいたい。

A 平成30年度の予算要望としており、町長に要望している。

Q 休泊川が汚水化している。その対策をお願いしたい。その川の防護柵も穴だらけであり、安全対策も盛り込んでもらいたい。

A ご要望ということで承らせていただく。今後、いまのご提言も含め調査していきたい。

Q ただいまの件について、要望してもたどり着かないで苦労されたと思うが、そういう時にこそ、いち早く議員の耳に入れ、議員が動くのも仕事だと思う。地域、町のためであるので、議員さん皆さんが協力しあって頑張ってもらいたい。

A 休泊川の件については、役場ともしっかり打ち合わせして、できる限り要望に応えられるよう、頑張っていきたい。